

報告

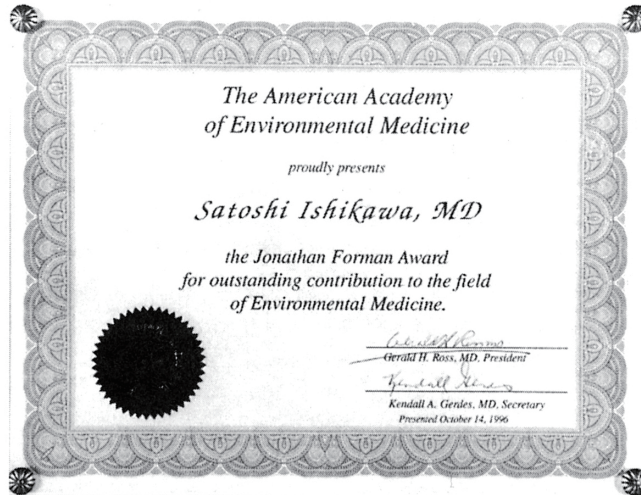
「ジョナサン・フォアマン賞受賞」

(臨床環境 5 : 89~89, 1996)

ジョナサン・フォアマン賞を戴いて

石川 哲

北里大学医学部長



この度、第31回 American Academy of Environmental Medicine (会長 J.Ross博士) から Jonathan Forman賞を受賞することとなりました。

この賞は1968年より、環境医学において、すぐれて大きな先駆者的研究を行った個人を顕彰するために贈られています。日本人としては私が初めての受賞です。対象となった主な研究は「有機リン化合物の眼、神経系に与える影響」で、これが国際的な評価を受けたわけです。この研究は昭和42年頃から、手足のしびれ、立ちくらみ、平衡障害、視力障害、視野狭窄、すなわち末梢神経・自立神経・視覚障害で受診する患者が多くなったことから始まりました。患者は、両親が農業に従事している7~10歳の女子が多かったのです。検査をしますと、眼球の垂直性追従運動障害、縮瞳、晩期散瞳、対光反応は遅鈍、血清および血球のコリンエステラーゼの低値、酸・アルカリフォスファターゼの高値、CCLF陽性を示すものが多かったので、農薬中毒を疑いました。これらの異常はアトロピン剤の長期少量の内服治療で軽快しました。

当時、佐久市浅間総合病院眼科にも、これと似た症例が50名以上いました。そのため昭和46年か

ら48年にわたり厚生省研究班および文部省科学研究費の援助で、詳細な疫学、臨床、実験を行いました。その成果は日本眼科学会で「宿題報告」として発表しました。この際厚生省研究班で用いられた診断基準は、1994年の米国環境庁の眼毒性判定基準にも、ほとんどそのまま採用されています。

またこれら一連の研究は、1994年に米国政府の研究者が細部にわたり追試、確認してJournal of Applied Toxicology (1994) に詳細が報告されています。

この問題に入れたのは神経眼科の知識があったから出来たのです。この研究以外にも環境医学研究を足掛け30年にわたり行ってきました。常に問題意識を持ち、共通な症状を持つ集団を発見し、その原因の仮説を立て、それを疫学、実験的研究から証明していくという手法で進んできました。その陰には教室員の努力がありました。

このような賞を戴くことは大変名誉なことだと思います。私の研究を支持して下さった方々に御礼申し上げます。